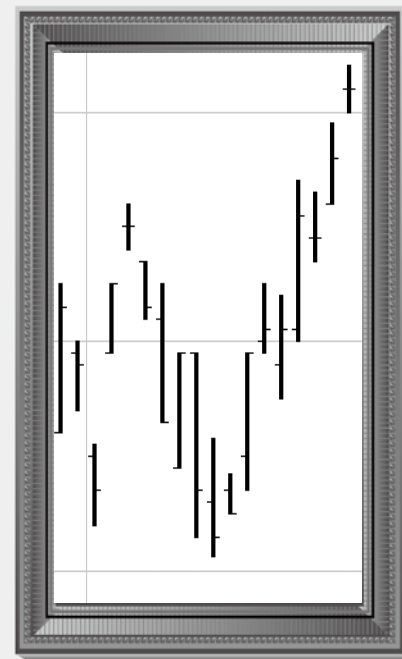


フィットしたシステムを構築してください。

それでは “Good luck and good trade!!”

関連書籍

1. バン・タープ『魔術師たちの心理学』パンローリング
2. ラリー・ウィリアムズ『相場で儲ける法』日本経済新聞社
3. ラリー・ウィリアムズ『ラリー・ウィリアムズの短期売買法』パンローリング
4. ラッセル・サンズ『タートルズの秘密』パンローリング
5. トーマス・ストリズマン『トレーディングシステム入門』パンローリング
6. ラルフ・ビンズ『投資家のためのマネーマネジメント』パンローリング



第 4 章

売買システムの 作り方

櫻井 元



日本でも世界でも、成功した投資家の多くが自分専用の売買システムを持っています。売買システムを開発し、それを頑固に使い続けることが成功の秘訣ではないでしょうか。

売買システムといっても必ずしも計算機を使うとはかぎりません。過去の相場書には、戦術を書いた手書きのメモやワークシートが見られるものもあります。しかし現在の私たちは、計算機のおかげで以前よりも簡単に売買システムを手に入れられるのです。

本章では、まず「4-1 売買システムとは」で売買システムの機能について解説します。そして「4-2 Excel入門」では、売買システムの構築に便利な表計算ソフトであるMicrosoft Excelの使用法を簡単に説明します。

Excelはデータの簡単な加工には便利です。しかし、ちょっと手の込んだ加工や大量データの加工は苦手としており、そのような場面ではVisual Basicが活躍します。ExcelはVisual Basicと連携して、より複雑なデータの加工ができるのです。「4-3 Visual Basic入門」では、Excel上でVisual Basicを使う方法について説明します。

実際にデータの処理をするとき、最も頭を痛めるのが過去データの入力と毎日のデータ更新です。パンローリング相場アプリケーションにはこれらの機能が備わっているので「4-4 Pan Active Market Database入門」では、自分のシステムでこれを利用する方法を説明します。

「4-5 売買の表示」と「4-6 成績の検証」では、売買システムを実際に構築し、成績を評価する手順について具体的に示します。

※本章は野村光紀氏の原稿に櫻井元氏が加筆したものです。

4-1 売買システムとは

投資家が市場で売買するときは、次のような行動をとることになります。

- 売買法の決定
- 売買法の検証
- データの入手
- データの表示
- 毎日の売買行動の決定
- 利益の評価

この売買法とは「チャート上に現れるいろいろなパターンから自分に有利な局面を選択することである」といえます。

現在の計算機はパターン情報処理が苦手なため、売買法を決定するのは人の右脳に任せたいほうがよいでしょう。それ以外の、行動の指針を得るために必要なデータの解析には、現在の計算機でも十分な役割を果たします。

売買を実行するとき、自分の取ろうとしているアプローチによってどの程度の利益が期待でき、同時にどの程度のリスクがあるのかをだれもが定量的に知りたいでしょう。本章の残りの部分では、デー

データを加工するときに現在私たちが最も簡単に利用できるMicrosoft Excelを使って、売買法を検証するための簡単な方法について解説します。

データの入手や表示は、パンローリング相場アプリケーションで十分です。

また、自分で売買法を検証できるようになれば、毎日の売買の指示は「4-4 Pan Active Market Database入門」で説明する、Pan Active Market Databaseを使えば、とても簡単です。利益を評価して表示する玉帳の機能も、このPan Active Market Databaseを使って実現できます。

ところで、一部の読者は計算機を使って「市場の動きを予測したい」と考えるかもしれません。しかし、市場の予測については本章の範囲外です。

価格の方向性を予測することや、ある金融商品の本来あるべき価格を求めることは、金融工学の主要な研究テーマです。しかし、現在の自分の行動は将来の市場に影響を与えてしまいます。したがって、利益を上げるために売買することと予測することとは、直接は結びつきません。

以後の解説は、過去の統計は将来役に立つであろうという、消極的ではありますが有益な仮定に基づいています。

4-2 Excel入門

本章では、Microsoft Excelを使ったアプローチを紹介するので、Excelの操作に、ある程度慣れておく必要があります。Excelにはたいへん多くの機能がありますが、この節では売買システムの構築に最低限必要な機能について、順を追って説明します。

価格データの記入とグラフ表示

Excelでは、ワークシートに数値を書き込み、その数値に対していろいろな演算を行います。ワークシートは行と列とから構成されており、価格データを扱う場合は、1つの列に1つの銘柄の価格を上から下に並べます。例えば、**図表4.1**では、ある株の終値を列Bに並べました。1行目には、表を見やすくするために見出しを書きます。

この例では、列Aに日付を記入しています。Excelで日付を扱う場合は、「年/月/日」の形式で記入します。

数字や「/ (スラッシュ)」は半角であることに注意してください。ここで「年.月.日」のように別の形で記入してしまうと、Excelがそれを日付として扱わないため、不便です。

終値を記入したら、これを折れ線グラフに表示してみましょう。

図表4.1 終値の記入

	A	B	C	D	E	F
1	日付	終値				
2	1983/8/25	3280				
3	1983/8/26	3320				
4	1983/8/27	3420				
5	1983/8/29	3350				
6	1983/8/30	3350				
7	1983/8/31	3280				
8	1983/9/1	3340				
9	1983/9/2	3300				
10	1983/9/3	3370				
11	1983/9/5	3370				
12	1983/9/6	3300				

Excelでグラフを表示するには、まず表示したい範囲を選択します。ここでは列Aと列Bをグラフにしたいので「Ctrl」キーを押しながら、ワークシートの一番上の「A」や「B」と書いてある場所を左クリックします。「Ctrl」キーを押すのは、複数の列を選択するためです。

列を選択したら [挿入] メニューから [グラフ] コマンドを実行します。するとグラフウィザードが実行されますので、あとは質問に答えて順に次へ進むとグラフが完成します。ここでは折れ線グラフを選んでみてください。

式の記入

価格が記入できたら、次に計算します。ここでは、過去20日間の安値を列Cに記入してみましよう。

前節では、セル（マス目）に終値を書き込みましたが、今度は「過去20日間の安値」を表す式を書き込みます。セルに式を書く場合、「=（半角のイコール）」に続いて、式を書き込みます。また、ある範囲の最小値をExcelでは「MIN（範囲）」で表します。

そこで、次のように操作します。

1. 行21列Cに「=MIN(」と書きます。式はすべて半角で書かなければならないことに注意してください。また、MINの後の開き括弧「(」を忘れないでください。
2. マウスを使って、列Bの行2から行21までをドラッグします。すると、行21列Cには「=MIN(B2:B21)」と書かれます。
3. 括弧を閉じるために、キーボードから「)」を入力します。ここまでの操作で、図表4.2aのように表示されます。
4. 「Enter」キーを押すと、このセルの表示が数値に変わります。この数値が、求める20日間の安値です。

ここで、範囲に「B2:B21」という表現が出てきました。

アルファベットの「B」は列B（左から2番目の列）を意味し、数字の「2」は2行目を意味します。ちなみにExcelには、このほかに「R1C1参照形式」と呼ばれるセルの指定方法があります。「R」